

## 平成 25 年度第 3 回 JaLC 運営委員会議事要旨

### 開催要旨

日 時 : 平成 26 年 3 月 13 日 (木) 9:30~11:30  
場 所 : 独立行政法人科学技術振興機構 東京本部 3 階入札室 2  
出席者(敬称略) : 国立情報学研究所 武田英明 (委員長)  
国立国会図書館 佐藤毅彦 (委員)  
独立行政法人物質・材料研究機構 谷藤幹子 (委員)  
独立行政法人科学技術振興機構 水野充 (委員)  
科学技術振興機構 齊藤隆行、中島律子、加藤齊史 (事務局)

- 議 事 概 要 : 1. JaLC 運用ポリシーの策定・公開計画<審議>  
2. 電子版学位 (博士) 論文への国立国会図書館による DOI 付与等について  
<報告>  
3. JaLC2 開発および関連作業<審議>  
4. 平成 25 年度実施状況<審議>  
5. 平成 26 年度計画<審議>  
6. ジャパンリンクセンター参加規約の改正<審議>  
7. JaLC 運営委員会および分科会に関する情報公開<審議>  
8. JaLC 正会員入会審査<審議>  
9. その他

### 議事概要

1. 「JaLC 運用ポリシーの策定・公開計画」について事務局より報告があった。これについて、以下の議論があった。
  - ・ 今後、外部機関からの DOI 登録を開始するにあたり、JaLC の運用ポリシーを示す必要がある。そのため平成 26 年度にかけて運用ポリシーの作成および公開を行うこととする。公開資料は出来上がり次第随時公開とする。
  - ・ DOI の登録方針は、コンテンツにより考え方が異なるケースが多いので、FAQ を作成して個別に方針を示す。第一に、DOI について「誰が何のためにつけるのか」といった点を記載する。DOI 登録の対象は、「インターネットで公開されている」ということを重要視するが、将来的に公開される可能性があれば登録対象としてよいと考えられる。また、「お金を払えば見られる」「資料の場所に行けば見られる」情報は、「その組織の所属でなくては見られない」情報とは別であり、DOI をつけて流通させる意義がある。よって、たとえば学内限定のコンテンツに対して DOI をつけることは推奨しない。DOI を登録することは何らかの品質保証をするものではなく、流通を担保することが目的である。
  - ・ 前回オブザーバより書籍については出版社が登録すべきという意見があり、来年度はそれについて議論を行うこととした。
  - ・ 登録コンテンツの範囲について、①「JST の所掌である科学技術・学術の創出に関係しないものへの DOI 登録について」、②「研究データについて」、③「特許公報について」の 3 項目を 26 年度の検討項目とするが、③については、既存の ID の仕組みが普及しているため、優先度を下げる。なお、

JaLC に登録可能な学術コンテンツのうち「研究報告書」について、何を以て「研究」と判断するかは、登録者が「研究」と申告すればそれを受け入れることとする。

## 2. 「電子版学位（博士）論文への国立国会図書館による DOI 付与等」について国立国会図書館より報告があった。

- ・ NII が博士論文を削除した場合でも、NDL は原則として当該論文を削除しない。また、NII が差し替えを行った場合でも、NDL が差し替えを行うとは限らない。そのため、検索したときに同じ DOI で 2 種類以上のコンテンツが検索されてしまうが、これはアーカイブとして例外を認めることとする。

## 3. 「JaLC2 開発および関連作業」について審議を行った。

- ・ メタデータ項目について、決定はしたがメタデータを柔軟に変更できるような設計になっているので、後から項目を追加することは可能である。
- ・ JaLC2 システムのリリースは、スケジュール上は 12 月末としている。8 月にリリース時期の判定を行う。

## 4. 「平成 25 年度実施状況」および 5. 「平成 26 年度計画」について審議を行った。

平成 25 年度に行った活動の概要は以下の通り。

- 16 会員の入会を承認

- 次期システム (JaLC2) 開発を実施。機能拡張の内容は、インターフェース改善、リンク機能改修、版への対応、対象コンテンツの拡大、研究者 ID 等

- 委員会は、運営委員会を 3 回、システム技術分科会を 5 回、対象コンテンツの拡大検討分科会を 3 回、普及分科会を 1 回開催

- 連携先である CrossRef のワークショップおよび年会と IDF の DOI 戦略会議に出席、意見交換

- 平成 25 年度実施状況の各種統計について、3 月末時点の会員ごとの件数も明記した状態で JaLC の Web サイトに公開（平成 26 年 4 月以降公開予定）

・ 平成 26 年度の計画は以下の通り。

- 平成 25 年度に開発した JaLC2 システムのリリース

- 普及活動として、JaLC の紹介や利用の手引きを整備。普及については、次年度第 1 回運営委員会および普及委員会で審議

- JaLC の会員および会員を検討している機関を対象とした利用者ミーティングを開催（平成 26 年 6 月頃を予定）。J-STAGE 利用学協会については、著者版に DOI を登録して流通させるという方針を周知するため、J-STAGE セミナーの 1 トピックスとして情報提供

- 分科会は、平成 25 年度と同様、システム技術分科会、対象コンテンツの拡大検討分科会、普及分科会の 3 分科会体制

## 6. 「ジャパンリンクセンター参加規約の改正」について審議を行った。

・ 現在 JaLC データの連携先として CrossRef および PubMed があるが、日本の学会からの要望があり新たに CAS Full Text Options を追加するため、参加規約の改正を行う。

・ CAS Full Text Options は商用の有料サービスであるが、一般的に広く使われている DB へのデータ

提供に関して間口を広げるのは意義がある。同様な理由で今後提携先の要望があった場合、JaLC 会員として日本の益になるかが否かで承認を判断することになる。何を根拠として判断するのかを明確にさせておく必要がある。CAS Full Text Options を入れる理由についてドキュメントを作成し、今後は根拠ドキュメントをもって審議検討する。

7. 「JaLC 運営委員会および分科会に関する情報公開」について審議を行い、公開が了承された。

- ・平成 25 年度第 1 回 JaLC 運営委員会および第 2 回 JaLC 運営委員会の議事要旨について、JaLC ホームページ上に Web 公開することが了承された。（第 1 回および第 2 回の議事要旨については、平成 25 年 3 月 25 日に公開済み。第 3 回 JaLC 運営委員会議事要旨についても、作成後了承され次第公開予定。）

8. 「JaLC 正会員入会審査」について審議を行い、以下が承認された。

- ・理化学研究所脳科学総合研究センター神経情報基盤センター

以 上